防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 130 号(2018. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

新　春　対　談

香川県危機管理総局長の山田恵三氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏のお二人に、「共助の力と自主防災組織」と題し新春対談をお願いしました。司会は、危機管理課の柴田 中氏が行いました。

【司会】
新年、明けましておめでとうございます。
今年が、穏やかな明るい一年となりますよう心から願っています。それではまず、昨年一年間を振り返って、それぞれご感想をお聞かせください。

山田総局長と岩﨑会長

【山田総局長】
明けましておめでとうございます。
昨年、かがわ自主ぼう連絡協議会は、「防災功労者防災担当大臣表彰」と「地方自治法施行 70 周年記念総務大臣表彰」のダブル受賞をされました。かねがね、かがわ自主ぼうは日本一だと思っていましたが、これが実証されたことになり、私も誇らしい気分です。
これも、岩﨑会長のリーダーシップとこれまでの皆さん方が重ねてこられたご努力の賜物だと敬服しております。

【岩﨑会長】
明けましておめでとうございます。
受賞に際しては、浜田知事をはじめ、県の皆さんに祝賀会にご出席いただき、心からの祝福を受けました。本当にありがとうございます。しかしこれは、私というより、かがわ自主ぼうのメンバー一人ひとりの功績と苦労であり、その家族のご理解があってのことです。この受賞で、かがわ自主ぼうやその構成員である自主防災組織のメンバーにとっては、自信や誇りになったのではないかと思います。

県危機管理課への受賞報告＝平成 29 年 9 月、県防災事務室で

プラスワン訓練の様子＝平成 29 年 11 月、指定障害児・者支援施設「白鳥園」（東かがわ市）で

この受賞は、学校や地域が合同で防災訓練を行うなど、防災訓練の輪を広げる活動に取り組んだことが評価されたと伺っておりますが、昨年は、シェイクアウト訓練のプラスワン訓練で、福祉施設での避難訓練にも取り組んでみました。

【司会】

ところで、かがわ自主ぼうは日本一ですが、個々の自主防災組織はどうなのでしょうか。岩﨑会長さんの目から見て、県内の自主防災組織の現状についてのご感想などをお聞かせください。

【岩﨑会長】

まず感じるのは、自主防災組織のリーダーの交代が早過ぎるのではないかということです。優秀なリーダーがいる組織は活発に活動し成長していきますが、任期満了に伴い別の方に変わった途端に活動しなくなったということが多々あります。優秀な人材がリーダーになっているときには、その活動は外から見てもよく分かりますので、任期で機械的に変わるのではなく、しばらくの間、リーダーを続けていってもらいたいと思いますね。

二つ目は、自主防災組織にお力添えいただいている市町のご担当者についても同じことが言えます。自主防災組織と積極的につながりを保とうとし、うまく連携を図れる方が担当者の時は、どんどんその自主防災組織が良くなるのを実感します。逆に、うまく連携の取れない方がご担当者になる場合がありますが、こちらは、人事異動があり、ある意味、仕方のないことかもしれませんが・・・。

【司会】

やはり「人」が肝心ということですか。これについて、県からの支援などをお聞かせください。

【山田総局長】

県では、自主防災組織リーダー研修会のほか、「自主防災組織訓練支援フォローアップ事業」や「自主防災活動アドバイザー派遣事業」、「自主防災組織広域化促進事業」などを実施していますが、これらの事業はいずれも、自主防災組織における人材の確保と育成を念頭に置いたものです。

対談中の山田総局長

また、岩﨑会長の地元の川西地区自主防災会で

は考えられているとのことですが、後継者づくりも問題となってきます。今の自主防災組織は、定年後のいわゆる「団塊の世代」の方々が活動の中心となられておられます。高齢者といってもまだまだ元気な方々ですから、これはこれでいいことなんですが、今後 10 年先、20 年先のことを考えますと、今から次に続く人を育てていなければ、組織としては長く続けることはできません。

それから、自主防災組織と市町とのつながり、これも大事なことですが、今後どのようにすればいいのか、岩﨑会長から何かあれば、教えていただきたいと思います。

プラスワン訓練中の岩﨑会長＝平成 29 年 11 月、地域密着型特定施設「せとうちリビングホーム」（三豊市）で

【岩﨑会長】

自主防災組織とうまく連携できている市町のご担当者はよく顔が見えます。そうじゃないご担当者はあまり顔が見えません。市町のご担当者の方が集まる何らかの機会に、名刺交換だけでもさせていただけたら、ありがたいと思います。名刺交換をしておくだけでも、ご担当者の方へのアプローチがしやすくなります。

また、ネットワークが互いにつながっていない地域もありますが、その場合には、その担当者を通じて、そういった地域の自主防災組織とつながりを持てるのではないかと思います。

【司会】

今、「つながり」、「連携」といった言葉がありましたが、自主防災組織同士の連携、他の組織との連携についてお聞かせください。

【岩﨑会長】

自主防災組織が活動を続けていくためには、「人づくり」に負けないぐらい大事なことと捉えているのが「資金づくり」です。川西地区自主防災会では、地元の丸亀市の企業を中心に協力をいただいています。現在、25 社ほどが賛助会員となり、支えてもらっています。

学校と連携をとっている自主防災組織が、県内にも増えてきましたが、もう一歩踏み込んで、企業を巻き込んでいってもらえればと思います。探せば、防災に熱心な企業の社長さん、役員さんがいらっしゃるはずです。そういった方にご協力いただいて、企業を巻き込むことができれば、もっともっと活動の幅が広がっていきます。

また、こういったノウハウを活かして、福祉施設などの他の組織と連携できれば、大きな成果が得られるのではないでしょうか。

【山田総局長】

先日のイベント（地域防災力向上シンポジウム in 香川 2017）で、岩﨑会長が「福祉施設は地域と共にあるという建前でありながら、実際にはその施設内だけで閉じこもっている。いざという時には、地域で一体になる必要があり、一緒にやっていこうという考えが必要だ。」といった趣旨のお話をされていましたが、自主防災組織と福祉施設との連携は、今後、重要になってくると思います。

地域防災力向上シンポジウム in 香川 2017 の様子（左から 3 人目：岩﨑会長、右端：山田総局長）＝平成 29 年 12 月、かがわ国際会議場（高松市）で

また、私もよく実感することなのですが、県庁以外の世界に目を向けることで、新たな気づきがある、違った発想を取り入れられることが多々あります。そういう意味では、他の組織との連携は、自主防災組織のメンバーにとっても新しい刺激となり、自身の成長にもつながる大事なことであると思います。

【岩﨑会長】

自主防災組織に入っていない方からでも、つながりを持っていることで、情報を得られることがあります。家の外回りの掃除をしていた時に、近所の若いお母さんから話しかけられ、「水のいらない歯磨き粉」というものを教えていただきました。聞いた後、すぐに薬局に買いに行きましたよ。

【司会】

かがわ自主ぼうが日本一の組織であるの間違いのないところですが、香川県民の「共助の力」は、いかほどなのでしょうか。

【岩﨑会長】

中には、自主防災組織をはじめとする「共助」に参加されない方もおられます。そういった方には行政からの情報が入りにくく、残念ながら、災害時に互いに声を掛け合うなどの意識づけなども見込めません。

そこで、かがわ自主ぼう連絡協議会では、現在、「共助」の仲間を増やしていくことを主眼に置いて、それぞれの地域の先導となるような自主防災組織を育成して、そこが周りの自主防災組織を引っ張っていくという形を作るべく取り組んでいます。

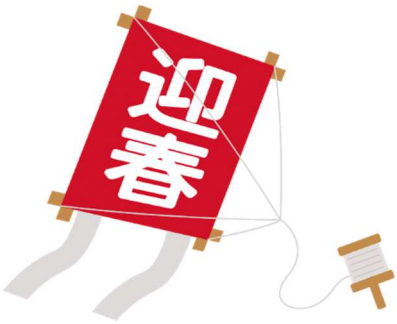
活発に活動している自主防災組織の多くは、市町ともよく連携が取れていますから、県や市町が発する防災に関する情報などもよく入ってきます。組織のメンバー内で情報の共有をしたり、また、お互いに意見交換もできます。

【山田総局長】

防災に関する情報が得られることは、「共助」の強みでもあり、「共助」の強化にもつながりますね。また、情報をただ受け取るのではなく、周りの人たちと話し合うことは、自分の頭で「考える」というプロセスにもなります。

災害のときに何が危ないか、どうすれば良いかなど、自分だけで理解したり、思いついたりすることには限界があります。そのヒントも他の人たちから手に入れられます。

また、先日のイベントで、山口大学大学院の瀧本先生が、「共助」が「自助」を引っ張っていくと話されていました。私は、その考えに加えて、「自助」がしっかりしていないと、「共助」も機能を発揮できないと考えています。「自助」と「共助」は、互いに高め合うことができる関係になっていると思います。



【司会】

昨年、四国新聞に掲載された岩﨑会長のメッセージでは、防災の大切さを思い知らされた経緯やボランティア活動の経験などが綴られていました。

【山田総局長】

やはり若い時の体験や経験が、今の岩﨑会長に大きな影響を与えたのだなと感じながら、興味深く読ませていただきました。室戸で「香川から来ているやつには災害が分からん。」と言われたのがよっぽど悔しかったようですね。

【岩﨑会長】

その言葉をおっしゃった方は、小柄で、お酒好きの陽気な方でしたが、とにかくきつい性格で、怒るとスコップで殴りかかってくるような人でした。室戸電報電話局に、香川県から管理者ではなく担当者で配属されたのは、私が初めてで、その方から「讃岐弁を使うな！」と怒られたりもしました。

私がちょっと変人に近かったのかもしれませんが、当時の上司からは、「讃岐の風雲児」とか、「讃岐の快男児」とか呼ばれたりもしました。映画の上映会を企画した際には、大赤字が出るのではないかと、室戸電報電話局の局長さんや総務課長さんが心配でのぞきに来られていました。

結果としては、連日超満員となり、月給が 1 万円ほどの時代に、小学校の図書代として 10 万円ほどの寄付ができました。

【山田総局長】

まだ、20 歳前後ですね。そんな若い時からボランティア活動を自ら先導したという

ことに感心しました。たいていの人は、ボランティア活動に付いて行くことはあっても、なかなか自分からはやりたがりません。

【司会】
　最後に、今年の抱負を一言。

【山田総局長】
　県内の個々の自主防災組織の機能強化、県民一人ひとりの防災意識の向上に向けて、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。そのためには、まだまだ「機関車」が必要です。かがわ自主ぼうの皆様には、今年も引き続き、「機関車」役を務めていただくようお願いします。

【岩﨑会長】
　今年は、福祉方面への取組みに対して力を入れていこうと思っています。具体的には、発災時における災害弱者の避難方法や被害抑制の方策についての研修、訓練の実施や福祉団体を対象とした防災研修会の開催を考えています。

【司会】
　まだまだ談論風発といったところですが、このあたりで、新春対談を終わらせていただきたいと思います。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

本年もよろしくお願いいたします！

事務局だより

平成30年　1月

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。

１．大臣賞ダブル受賞による祝賀会の開催

平成 29 年 9 月 12 日内閣府防災担当大臣より防災功労者表彰、11 月 20 日に総務大臣より地方自治法施行 70 周年記念表彰と、3 ヵ月の間に 2 度続けて大臣表彰をいただいたことは、この 10 年間かがわ自主ぼう（略称）が取組んできた事に対する評価でもあり、誠に光栄の極みであると思っています。

このような希と思えるような、ダブル大臣表彰受賞を記念して、12 月 20 日 JR ホテルクレメント日本料理「瀬戸」「扇」の間において、香川県知事　浜田恵造様、香川県危機管理総局長　山田恵三様ほか県幹部の皆様のご出席をいただき、盛大に祝賀会を開催しました。

これを機に役員並びに会員の更なる団結と関係団体との連携を強化して、香川県内の防災力を主にした共助の底上げを図ってまいりたいと思っています。

２．「絆」強化月間（12 月）の振りかえり

12 月は年間の締めくくりとして、大切な月間であると常々意識して行動しておりますが、その具体的取組みを紹介します。

私（岩﨑）は元来、人々との「絆」を大切にした人生をと思っています。これは亡くなった両親からの教えでもありました。

16 年程前から作成しています、カレンダーを持参して、あいさつ回りにでかけており、あいさつ回り先は、

①地元川西地区の人的ネットワークの基盤強化によるものとして、約 100 ヵ所（企業、団体、学校、個人）

②丸亀市全域に広げてのネットワークの維持強化

行政関係者、コミュニティ会長、社会福祉協議会関係者、企業関係者、約 100 ヵ所

③県内全域にわたっての絆づくりの更なる構築として

自主防災関係者、市町関係者、福祉団体、教育関係、県庁内関係部門等約 200 ヵ所

平成 8 年生まれのサーフ（ターボディーゼル 3,000）に乗って、東は東かがわ市から西は観音寺市まで 12 月の走行距離約 2,500km を走り回っての絆づくりです。

謹賀新年

編集後記

今月の防災・減災の輪は、香川県危機管理総局長の山田恵三氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏のお二人の対談を新春対談として、掲載させていただきました。ありがとうございました。